

第1 A分科会 研究課題「教育課程に関する課題」

研究主題『令和の日本型学校教育の具現化「個別最適な学びの実現」のための教頭のかかわりについて』

宮崎支会 第2班

1 主題設定の理由

現代社会の急激な変化や予測困難な未来を生き抜く子どもたちを育てるため、文部科学省は「令和の日本型学校教育」のビジョンを掲げ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を求めている。このうち、個別最適な学びは、子ども一人ひとりの学習進度や特性、興味・関心に応じた学びを実現することで、資質・能力を一層確実に育むことを目的としている。

また、宮崎県教育振興基本計画においても、「未来を拓く子どもたち一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育」が目標の一つに掲げられ、教育活動の個別化・最適化を進めるための指導方法の改善や ICT 環境の活用が重点施策とされている。

さらに、第3次宮崎市教育ビジョンにおいては、「一人一人の個性や多様性に対応した魅力ある学び」を実現させる具体的な施策として、「自ら選択し決定できる主体的な学びの充実」を掲げ、『「教員の教えやすさ」から「子供の学びやすさ」への授業観の転換と実践』を求めている。

これらの動向から、今後、学校教育において、すべての子どもたちの可能性を最大限に引き出すための「個別最適な学び」の実現は、重要取組事項であるといえる。そして、この新たな学びを組織的に推進し、教職員がその理念を共有し実践していくために、学校全体をマネジメントする教頭の役割が極めて重要になっている。

以上のことから、個別最適な学びの実現に向けた教頭の具体的な関わりを明確にし、学校全体の教育力を向上させることで、未来社会をたくましく生き抜く子どもたちを育てたいと考え、本主題を設定する。

2 研究のねらい

「個別最適な学び」は、単に ICT 機器を導入するだけではなく、教師の授業観の転換、指導方法の改善、学習評価の見直しなど、学校組織全体の変革を必要とする。本研究では、この変革を主導する教頭の具体的な役割と、その職務を遂行するために求められる専門性やリーダーシップについて明確化することをねらいとする。

3 研究の概要

(1) 研究推進と指導力向上のための戦略的な推進

新しい学習を単なる手法で終わらせず、校内の教育活動全体に根付かせるための指導的役割を研究する。

(2) 校内・校外リソースを活用する環境のコーディネート

授業改善のための人的・物理的な資源を活用し、教職員が新しい知識や視点を得られる機会を創出する方法を研究する。

4 研究の実際

(1) 「選択調整学習 (マイプログラム)」による授業観の転換 (宮崎小学校)

令和4年度から「選択調整学習 (マイプログラム)」の取組を開始した。選択場面を設定することにより、



与えられるのではなく、自分で学ぶ学習になっている点が意欲の向上につながっている。「選択調整学習 (マイプログラム)」をより一層充実させるため、教頭として学び推進部と連携しながら

ら以下の取組を実践した。

ア 学び推進部への指導助言

本取組においての課題は計画立案、教材・教具の準備の時間確保と、学年単位での実施で、場の設定と指導者の確保が難しいことであった。そこで、次のような指導助言を行った。

(ア) 時間設定

教務に学年会の時間や放課後の時間を準備の時間として設定するよう助言した。このことにより、無理なく準備時間の確保ができた。また、学習の計画案やワークシートはデータとして保管したり、教材・教具は整理して保管したりして次年度以降に活用するよう助言した。加えてこの時間は各学年での学習に向けての共通理解を図る場としても利用している。

(イ) 場の設定と指導者の確保

「選択調整学習（マイプログラム）」は各学年で学級を解体し、学年全体で行っている。学習内容や選択項目数によっては、担任だけでは人数が不足するため指導者の確保が必要である。この課題の解消のために、教科担任制推進加配や課題解決推進加配として配属されている講師や専科指導の教職員の協力も得られるよう指導した。

イ 教職員へ向けての指導助言

(ア) 授業参観のすすめ

様々な学年の取組やアイデア等を他学年の授業に活用させることにより、より充実した学びにつなげるため、いずれかの学年が「選択調整学習（マイプログラム）」を行う際には、可能な限り授業参観をするよう助言した。

授業後には疑問点や意見の交換をすることで、教職員全体の指導力の向上へつながることも期待している。

(イ) 先進校視察

自由進度学習をはじめとする先進的な学習を取り入れ授業公開を実施している小学校が

国内に数校存在する。可能な限り多くの教職員を派遣し研修させている。出張後には報告会を実施し、本校の研究の発展や改善に生かせるようにしている。

(2) 自由進度学習による授業観の転換（大淀小学校）

ア 研究推進への指導助言

研究部に対し、「個別最適な学び」を実現する自由進度学習の実践方法の研究を指示し、内容について協議を行った。この中で、単に手法を伝えるだけでなく、「個別最適な学び」の考え方について全教職員が具体的にイメージできるような研修となるように助言した。特に、選択決定場面の重要性や、教師の意識すべきことなど、授業観の転換がなされる研究になるよう指導助言を行った。

イ 優良実践の拡散による、他者参照の支援

授業実践を進める中で、教職員間で指導の在り方に関する具体的な質問や意見が話題に上がるようになってきた。しかし、同時期に様々な課題を解決した優良実践を行う教師も現れた。そこで、研究部には課題をもつ教職員が優良実践を参照し参考にできるような研修となるよう助言した。助言に当たっては、研究部とともに取組を進めている学級に出向き、全体にとってどの部分が参考になるかを明らかにし、職員が他者を参照し自己の課題を解決していけるよう支援した。

5 今後の課題

「個別最適な学び」についての様々な実践が実を結ぶには、全職員による共通理解・共通実践推進により、発達段階に応じた指導が学年を超えて連続することが重要である。そのために、意識と実践の変革を促す研究推進支援、他者参照の環境整備、校内外の人的資源の活用による個の見取りの組織化が今後の課題である。